

# 相手に伝わる！聞いて楽しい！ 六つのポイントを使って英語でコミュニケーション －「Communication points」を使って－

## 富岡市立富岡小学校

- 主 題 外国語活動において相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとする児童の育成  
－自分で選んだコミュニケーションのポイントを用いて－
- 校 長 吉田 悟
- 児童数 586名
- 学級数 21学級
- 執筆者 教諭 根岸 愛美
- 住 所 〒370-2316 富岡市富岡1359
- 電 話 0274-62-3451
- U R L <http://tomioka-es.nc.tomioka.ed.jp/>
- 支 部 富岡市教育研究所



### 1 主題設定の理由

国立教育政策研究所が平成29年3月に公表した「小学校英語教育に関する調査研究」の結果からは、小学校外国語活動の課題として「1割程度の児童が外国語活動の授業に苦手意識をもっていること」「外国語活動が歌やゲームだけで終わってしまい、児童が自分の考えや気持ちを伝え合うコミュニケーションまで至っていないこと」などが挙げられている。本校6学年の児童は、外国語活動の授業に非常に意欲的に取り組むことができている。英語に高い関心をもつ児童がいる反面、ただ教師の話す英語を繰り返しているだけの児童もいる。これらの課題は、ゲームで早くあがろうと早口になってしまったり、発表で紙を読み上げるだけになってしまったりするなど、活動の目的を意識できていないことに起因すると考える。意欲の高い児童に対しては、相手により効果的に伝えることができる方法や、相手の話をより丁寧に聞くことができる方法を示すことで、児童は相手意識をもってコミュニケーションを図ることができると思う。苦手意識をもつ児童に対しては、どのような

事を意識して英語を話したり聞いたりすればよいか、コミュニケーションを図る際の視点を明確にすることで、児童が自分自身でその視点を意識しながら英語を使うことができると考える。

以上から、外国語活動において、相手意識をもってコミュニケーションを図ることができる児童を育成したいと考えた。そのために、「Communication points」を用いたり、児童が授業や自分に合ったポイントを選んだりしてコミュニケーションを図ることは有効であると考え、実践を行った。これらの手立てを繰り返し行うことで、「相手に伝えよう、相手の話を聞こう」という意欲をもって表現することができると思う、本主題を設定した。

## 2 研究のねらい

外国語活動において、コミュニケーションのポイントを用い、児童が自分に合ったポイントを選ぶことは、相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めることに有効であることを、実践を通して明らかにする。

## 3 研究の見通し

### (1) 見通し1

コミュニケーションの視点として「Communication points」を全ての授業で用いることによって、児童は相手意識をもって意欲的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとするであろう。

### (2) 見通し2

児童自身が自分に合ったコミュニケーションのポイントを選び、意識して活動することは、児童に英語を使うことへの達成感を与え、より意欲的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとするであろう。

## 4 研究の内容と方法

### (1) 「相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとする児童」とは

「相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとする児童」とは、相手のことをもっと知ろうと意欲をもって聞いたり、相手に伝えようという意欲をもって話したりする児童である。このような児童を育成するために、「Communication points」を用いることが有効であると考えた。本研究では、「Communication points」として図1に示す六つのポイントを使用した。

例えば、相手によりよく伝えるために②と③を意識してスピーチしたり、相手のことを知ろうと①と⑤を意識して聞いたりする児童の姿が、相手意識をもってコミュニケーションを図ることだと考える。



図1 「Communication points」

### (2) 「児童自身がコミュニケーションのポイントを選ぶ」とは

本研究では六つの「Communication points」の中から、児童自身がその授業で意識するポイントを選んだ。英語や発表に苦手意識を抱いている児童は、①のListen carefully や④のSmileなど達成しやすいポイントを選んでいった。発表が得意な児童は、より相手に伝えようと⑤のReactionや⑥のGestureなど、比較的難易度の高いコミュニケーションのポイントを進んで選んでいた。一人一人が自分に合ったコミュニケーションのポイントを選び、活動に取り組むことで、その授業の中で達成感が得られるようにした。毎時間授業後に「Reflection（振り返り）」を行い、授業の中でコミュニケーションのポイントを意識できたか、自分で選んだコミュニケーションのポイントを使ったことで活動への意欲が高まったか、などの自己評価を行った。

## 5 実践の概要

### (1) ねらい

コミュニケーションのポイントを意識することで、児童が相手意識をもって自分の行きたい国を紹介したり、友達の行きたい国を聞いたりしようとする意欲を高める。

(2) 展開

学習活動	支援及び留意点	児童の様子
<p>1 Greeting</p> <p>○前時の学習内容を想起させることにより、本時は行きたい国を友達に紹介する時間であることを確認する。(一斉)</p>	<p>・ T1、T2 (外国語活動支援員)、T3 (ALT) の順に外国語で挨拶をし、外国語活動への切り替えを図る。</p>	
<p>2 Today's goal</p> <p>○児童の言葉を基にめあてを立てる。(一斉)</p>	<p>○前時の活動を想起させ、本時のめあてを児童と一緒に考える。</p>	 <p>今日は行きたい国を友達に紹介する時間だな。</p>
<h2 style="margin: 0;">Today's goal</h2> <p style="margin: 0;">どうしたら自分が行きたい国について、相手に分かりやすく伝えられるだろうか。</p>		
<p>○「Communication points」の中から、児童が本時に意識するポイントを選ぶ。(個別)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① Listen carefully 🎧 ④ Smile 😊</p> <p>② Eye contact 👁️ ⑤ Reaction 🗣️</p> <p>③ Clear voice 🗣️ ⑥ Gesture 🖐️</p> </div>	<p>・ コミュニケーションのポイントを決める際に、本時は行きたい国を友達に紹介する時間であることを児童と確認する。</p>	 <p>今日は友達にたくさん話すから③のClear voiceにしよう。</p>
<p>3 Let's chant.</p> <p>「Let's go to Italy.②」</p> <p>○語句や言い方の復習も兼ねて、チャンツを楽しく歌う。(一斉)</p>	<p>・ 苦手な児童も言いやすいよう、チャンツの表現文を黒板に貼る。</p>	
<p>4 Activity 1 「おすすめの国を紹介しよう」</p> <p>○ T2、T3 がさくら・ひかる役でスピーチする。T2、T3 のスピーチを聞いて、どこへなぜ行きたいのか考える。(一斉)</p>	<p>・ 児童がコミュニケーションのポイントを意識できるよう、<u>T2、T3 の先生の発表のどこがよかったかを児童に問</u>いかける。</p>	 <p>ALTの先生はEye contactができていな。相手の目を見てはっきりした声で話すと伝わりやすいな。</p>
<p>5 「行きたい国を友達に紹介しよう」</p> <p><b>Practice time</b></p> <p>○コミュニケーションのポイントを意識し、発表の練習を行う。(ペア)</p>	<p>・ 児童が自信をもって活動に取り組めるよう、練習する場面で、机間指導で助言したり励ましたりする。</p>	 <p>僕のコミュニケーションのポイントはClear voiceだから練習からはっきりとした声で話そう。</p>



〇〇君と〇〇さんの発表、Gestureがよくできているな。

・よりコミュニケーションのポイントを意識して練習に取り組めるよう、相手意識をもって練習している児童に全体の前で手本をさせる。



お手本の二人を真似して、相手に分かりやすく伝えるぞ。

## Communication time

〇行きたい国とその理由を友達に紹介する。コミュニケーションのポイントが意識できるよう、お互いに評価し合う。(ペア)

### 6 Reflection (振り返り)

〇自分の行きたい国を伝えたり、相手の発表を聞いたりすることができたか、さらにコミュニケーションのポイントを意識できたかを振り返る。(個別)

・児童が相手意識をもって発表したり聞いたりできるよう、「Communication points」の中でどの項目ができているか、児童同士で互いに評価し合う。

・児童が振り返りを発表することで、コミュニケーションのポイントを意識することの大切さを全体で共有できるようにする。

Speech		Eye contact	Clear voice	Smile	Gesture
チェックした人の名前	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

Listening		Listen carefully	Eye contact	Smile	Reaction
チェックした人の名前	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

### 【評価項目】(コ)

相手意識をもって自分の行きたい国を紹介したり、友達の行きたい国を聞いたりしようとしている。(観察・ノート・発言)

## 6 研究の結果と考察

### (1) 見通し1について

「Communication points」を毎回用いて授業に取り組むことで、話す時に相手の目を見ること、相手の話にリアクションを返すことなど、コミュニケーションのポイントが児童の中に浸透していった。授業後の振り返りでコミュニケーションのポイントが達成できたか自己評価した。「よくできた」の◎が付いた児童は達成感をもって授業を終えることができ、課題を見つけた児童は、次の授業ではできるようになろうという意欲をもつことができた(図2)。

<p>すばらしい！ つばけようね！</p> <p>◎</p>	<p>しっかりと1人で発音で説明できたし、はっきり言え(◎)3(◎)5(◎)が◎に変わった。Where is the ~?もはっきり言えるようにする！</p>
------------------------------------	---

図2 児童の自己評価・学習感想

コミュニケーション活動の際には、話し方のポイント、聞き方のポイントがそれぞれできているかどうか、友達による他者評価を行った(次頁図3)。他者評価をすることによって、「自分ではできているつもりだったけれど、実際には相手には伝わっていなかった」「自分でもできていると思っていたし、友達から◎をもらってより自信がついた」など新たな課題が見付かったり、励みになったりし

ていた。また、授業後、コミュニケーションのポイントを自己評価する際にも、友達からの評価があると自分での評価もしやすかった(図4)。

Speech					
チェックした人の名前	②Eye contact	③Clear voice	④Smile	⑤Gesture	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

Listening					
チェックした人の名前	①Listen carefully	②Eye contact	④Smile	⑤Reaction	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

図3 友達による他者評価

コミュニケーションポイントのRedaction  
 ができるようになってよかったです。  
 Gestureがもっとできるようになり  
 たいと思うので今後のスピーチ  
 に生かせるようにしたいです。

図4 授業後の児童の感想

4月と12月に行った外国語活動に関するアンケートの結果を見ると、「相手の目を見て話を聞くこと」「はっきりとした声で英語を話すこと」「相手の話に反応を返すこと」の三つの項目を意識している児童が増えた(図5)。

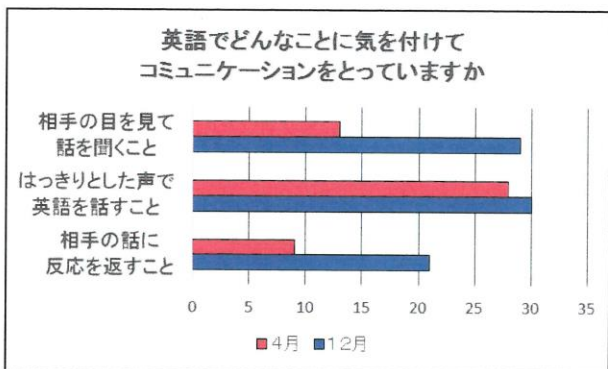


図5 英語のコミュニケーションで気を付けていることに関する調査結果

児童の授業後の振り返りの中でも、「会話ではコミュニケーションのポイントが大切だ

と思った」と英語表現だけでなく、相手意識をもってコミュニケーションを図ることの大切さに気付くことができていた。

以上のことから、コミュニケーションのポイントを提示したことで、相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとする意欲が高まった。また、授業後にコミュニケーションのポイントを自己評価することは、自信につながったり、新たな課題に気付いたりするため、意欲の向上に有効であった。

## (2) 見通し2について

4月当初は、「今日はClear voiceを意識して話そう」と、教師が児童に意識させたいコミュニケーションのポイントを提示していた。しかし、発表が苦手な児童や英語に苦手意識をもっている児童にとって、はっきりとした声で英語を話すことは簡単なことではない。授業後の振り返りでは「今日も大きな声で話せなかった」と、△の自己評価が付くことがあった。

教師から提示されたCommunication pointsだと達成できないことも...

自分で選んだCommunication pointsならOが付き、達成感がある!

図6 4月から12月の児童の自己評価の変化

そこで、児童自身が自分に合ったコミュニケーションのポイントを選ぶように変更したところ、英語を話したり聞いたりすることに苦手意識をもつ児童は、図6のように比較的簡単な①Listen carefullyや④Smileを選ぶなど、自分が達成しやすいコミュニケーションのポイントを選ぶようになり、授業後に達成感を感じられるようになった。英語に高い意

欲をもつ児童や発表が得意な児童は、⑤ Reactionや⑥Gestureを選ぶなど、積極的に難易度の高いコミュニケーションのポイントを選んでいった。また、「Communication points」を意識して話したり聞いたりできているペアに、全体の前で手本を披露する場を設けた(図7)。



図7 Communication pointsを意識できている児童による手本

児童による手本は、他の児童に対し「○○君たちみたいに上手になりたい」とよい刺激になり、児童はより意欲的に、相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとすることができた(図8、図9)。



図8 児童の手本を見せた後の練習風景

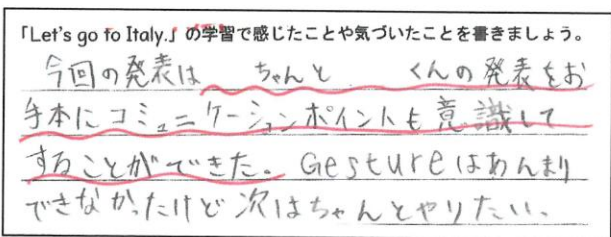


図9 児童の手本を見せた後の感想

以上のことから、児童が自分に合ったコミュニケーションのポイントを選ぶことは、英語が得意な児童にとっても苦手意識をもつ児童にとっても、達成感を与え、コミュニケーションを図ることへの意欲を高めることに有効であった。

## 7 研究のまとめと今後の課題

「Communication points」を年間を通して用いたことで、「Communication points」が児童の中に根付いた。コミュニケーションを図る際の視点が明確になることで、会話中に相手の目を見ることがや「Nice!」とリアクションを返すことが自然とできるようになった。ジェスチャーを付けて話をするのは英語特有の表現とも言えるが、このポイントもコミュニケーションの大切な一面である。外国語活動で身に付いたコミュニケーション力を教科横断的に発揮できるよう、これからの指導に生かしたい。

また、「Communication points」の中から児童自身が意識するポイントを選ぶことで、英語の得意・不得意に関わらず達成感を味わい、英語を使ってコミュニケーションを図ることへの意欲が向上した。この背景には自己決定が関わっていると考えられる。「今日は単元の一時間目だから、新しい単語がたくさん出るな。①のListen carefullyを選んでALTの先生の発音をよく聞こう。」「発表の時間だから③のClear voiceではっきりと話すぞ。」と児童はその授業で必要なポイントを判断し、選ぶことができていた。友人同士、互いに学び合いながら自分に必要なことを見付け、選ぶことは、授業への楽しさと学習意欲の向上につながることを実感した。

「Communication points」を用いていきいきと活動する児童の姿はとても印象的であった。今後も、相手とコミュニケーションを図ることの楽しさを児童と教師が実感できる外国語活動の授業を行っていきたい。